

市 町 村：酒田市

タイトル：中山間地域の集落営農型「株式会社」のパイオニア

～稲WCSに取り組み、耕畜連携を経営の柱に地域の発展を目指す～

氏名(集団名)：株式会社 和農日向 (わのうにっこう)



稲WCS収穫作業

1 受賞者の概要

(株)和農日向は、平成19年に酒田市日向地区(旧八幡町)で設立した法人である。集落住民の高齢化、後継者不足、遊休農地の増加等に対応するため、集落営農組織の法人化としては県内初となる「株式会社」として運営を開始した。経営の柱は飼料作物であり、平成14年に県内で初めて稲WCS専用収穫機を導入し、耕畜連携にいち早く取り組んできた。現在は、従業員7名を雇用し、主食用米14ha、WCS用稲17ha、SGS用稲16ha、そば8ha、WCS収穫作業受託40ha、堆肥散布作業受託40haを経営しているほか、冬季間は市道等の除雪作業を受託して周年雇用を確保する等、株式会社のメリットを最大限活用した経営を行っている。

2 特色ある活動

(1) 耕畜連携による環境保全型農業

飼料作物が経営面積の6割を占めており、収穫物は酒田・飽海地域の畜産経営体へ供給し、それらの経営体で生産された堆肥を水田に散布して、循環型農業を確立している。また、地域内の大規模酪農法人「(株)鳥海高原デーリィファーム」(乳牛900頭規模)との連携を強化して、飼料作物の供給の他、同法人の家畜排せつ物を活用したバイオマス発電で発生する有機液肥を稲WCS栽培圃場に施用する実証実験を令和4年度から開始し、環境保全型農業に取り組んでいる。

(2) 次世代につなぐ人材育成と効率的な農作業

当法人は非農家出身の社員が多いため、人材育成ツールとして山形県版GAP認証を取得し、社員の安全管理・危機管理等に役立てている。また、圃場管理システムを導入して効率的な農作業を実現し、働きやすい環境を整備している。

(3) 農福連携による障がい者の生きがい創出

平成24年から同地域の障がい者福祉施設に、水稻苗箱の収納、ひまわり畑の管理、園芸ハウス内の管理作業等を委託しており、10人前後の就業機会を確保している。このような取組を通して、障がい者に対する賃金と就労の楽しみ、生きがいの場を創出することで、農業と福祉の連携を推進している。

(4) 地域インフラ及び中山間農地の保全

平成27年以降、酒田市から地域内市道全般の除雪作業を受託し、冬季間の貴重な収入源としている。また、稲作に向かない農地を有効活用して、そばを大規模に栽培するなど、地域インフラ及び中山間農地の保全に貢献している。

3 今後の発展方向

次世代リーダーの育成や大規模酪農法人との連携、「みどりの食料システム戦略」の実現に向けた栽培品目の選定など課題は多いが、「地域を守る」という会社設立時の理念を忘れずに、交流人口を増加させ、移住者等を生み出し、酒田市八幡地域の発展に寄与する取組を行っていく。



阿曾代表取締役(中央)と社員一同